

# N P O 推 進 事 業 ( 平 成 1 7 年 度 実 施 分 ) 評 価 実 施 報 告

平 成 1 8 年 7 月

宮 城 県 環 境 生 活 部 N P O 活 動 促 進 室

## 目 次

### (本 編)

1．NPO推進事業評価実施の目的	-----	1
2．評価事業の実施状況	-----	1
3．評価結果の概略	-----	2
4．自由意見（抜粋・要約）	-----	3
5．考 察	-----	9

### (資 料)

NPO推進事業（平成17年度実施分）評価対象事業一覧

NPO推進事業（平成17年度実施分）評価集計表（総括）

NPO推進事業評価シート

## 1 . N P O 推進事業評価実施の目的

- ・ N P O と行政との協働を進める上で、実際に県の業務を N P O に委託する際には、行政の事業に期待される公平性、経済性、安定性などを担保しながら、同時に N P O の持つ地域性、専門性、柔軟性などの特性を事業の実施に活かすことが重要です。また、受託団体の公正な選考や妥当な委託条件の設定はもちろん、事業の目的や達成目標、お互いの役割分担等についての共有化などにも十分な配慮がなされて、はじめて高い事業効果が生み出されると言えます。
- ・ この評価事業は、別添の「 N P O 推進事業評価シート」により、委託者側、受託者側それぞれが事業の自己評価を行い、その結果を両者で共有し事後の改善につなげることで、 N P O と行政との協働の一つである「委託」が、本来期待される成果をあげることを目的として導入されたものです。
- ・ 加えて、この評価シートが、事業実施にあたってあらかじめ留意すべき事柄を、委託者、受託者が確認する上での「チェックシート」としての活用も期待されるものです。

## 2 . 評価事業の実施状況

### (1) 評価対象

平成 17 年度 N P O 推進事業である 11 事業( 県 : 9 課室( 所), N P O : 延べ 17 団体)。( 別紙 : N P O 推進事業( 平成 17 年度実施分) 評価対象事業一覧)

### (2) 評価手法

県 N P O 活動促進室において、宮城県民間非営利活動促進委員会の意見を踏まえ、別添「 N P O 推進事業評価シート」を作成、同評価シートに基づき、委託者、受託者が各々の立場から自己評価を実施。

### (3) 評価結果の活用等

- ・ 委託者、受託者が記入した評価シートについては、その写しをそれぞれの相手方にも送付し、評価結果の共有を図る。
- ・ 事業毎の 5 段階評価の結果、主な自由意見等については、本報告書に記載し関係者等に配布するとともに、当室ホームページに掲載することとした。

### 3 . 評価結果の概略

評価は、10の評価項目について、0～4点の5段階評価により評点を実施した。

事 項	該当項目	評点等
全10項目の平均評点		県： 3 . 6 NPO： 3 . 5
最も平均評点の高い評価項目	県： 2 ミッションとの整合性 3 協働の必要性 4 役割分担の共有化 8 役割の達成度 9 協働による事業効果 10 ミッションへの有効性 NPO： 1 事業目的と計画	県： 3 . 8 NPO： 3 . 7
最も平均評点の低い評価項目	県： 7 振り返りの機会の設定 NPO： 5 行程・進行管理 7 振り返りの機会の設定	県： 3 . 0 NPO： 3 . 2
県とNPOとで評点の乖離が最も大きい評価項目	5 行程・進行管理 9 協働による事業効果 <u>乖離： 0 . 4</u>	県：3.6 NPO：3.2 県：3.8 NPO：3.4
県とNPOとで評点の乖離が最も小さい評価項目	1 事業目的と計画 <u>乖離： 0 . 1</u>	県：3.6 NPO：3.7

#### 4 . 自由意見 ( 抜粋 ・ 要約 )

##### (1) 今回の協働事業を振り返って

###### 【 N P O 】

- ・ 行政の縦割りの弊害をなくすための、立場を越えた取り組みが必要であることは、常に感じることであるが、今回はそれぞれの立場を越えた形態で協働事業に取り組むことができた。
- ・ 事業の計画が年度の中でももう少し早めのほうが良い。企画提案が早めだと遂行の時間が充分にとれると思う。
- ・ 協働事業であるセミナーや講座に、県や市町村行政職員のより多くの参加が望まれる。行政職員の参加が少なく、NPO理解の低さを実感した。また、一般の参加者も、行政との協働事業であることをほとんど認識していない。
- ・ 多くのボランティア活動によって、地道に積み上げてきた私達の「何とかできないか」という思いをこのような協働事業に反映できたことはありがたかった。何より、行政が子どもの思いをくみ取る姿勢を見せてくれたことがうれしかった。
- ・ 委託事業の仕様の中で、担当課で実際にどの程度の成果品を想定しているかがあまりはっきり示されていなかった。その意味で「お任せ」の感じがあったことは否めない。こちらも日常業務に追われて問い合わせを怠ったことも反省点である。
- ・ 相互理解、共通認識等がスムーズであったと思う。今後もこの関係を続け、協働事業を行いたい。
- ・ 担当者が、NPOとの協働の意義をよく理解した上で関わっていただいたので、準備から実施までスムーズに実施することができた。実施前後における課題等にも適切に対応し、いろいろな角度から協働事業の主旨・目的を検証することができた。
- ・ 自分自身の手で企画立案から実施までできることはとても素晴らしいと思う。今後のために、できれば次の点を望みたい。委託が決定したら、なるべく早く委託金を前金払いして欲しい。企画書だけの検討でなく、事業実施中も双方で検討する機会を設けて欲しい。
- ・ 今回の事業で唯一最大の問題点は、受講生が集まらなかったこと。今回のテーマは、各種アンケートなどからも生活者のニーズが高いものと思われるが、必要なところに募集情報が届いていなかった。まだ基盤の整わないNPOにとっては、有力な広報ルートがない。行政との協働では広報面のサポートをお願いしたい。

- ・今後とも、協働事業の実施に当たり、最小の費用で最大の効果を得るよう努力をしていきたいと考えている。
- ・本年度のNPO推進事業の中に福祉事業が数件あった。もし可能であれば、福祉ジャンルの人たちとの報告会やミニシンポジウム、あるいは、県（行政）への報告会などを開催できないだろうか。何かに活かされてこそ、大きな意義が生まれてくるので、何をやったのか、何の成果があったのか知って聞いて欲しいし、評価もしてもらいたい。それで新たな協働の可能性も発見できるかもしれない。
- ・もともと広報宣伝能力に乏しく、他団体とのパイプも少ないNPOにとっては、事業を行う際に参加者を集めることが最大のネックとなっている。どんなに面白い事業を企画しても、それを伝える宣伝機会と、伝えるノウハウの両方に乏しいため、参加者を呼び込むまでの力はないのが実情である。そこで、広報についてのアドバイスとか、県の広報誌や新聞広報欄、ミニコミ誌の紹介等により、広報に協力してもらえる形を作って欲しい。この弱い部分について、もう少しでも援助が受けられれば、より効果のある事業を展開することができると思う。

#### 【県】

- ・専門性の有する今回の事業について、NPOの適切な事業執行により当初の目的どおりの成果を上げることができた。また、意思疎通を十分に図るために定期的に行った話し合いの機会を通して、NPO側からの貴重な提案を事業に反映させることにより、行政の視点だけでない新しい視点から事業を見つめ直すことができ、適切な事業執行を行うことができた。
- ・協働事業全体はスムーズに進める事ができたと思う。NPOには、今後さらに専門性を深め、活動の幅が広がっていくことを期待している。
- ・事業の協働ということで、お互いの役割を十分に果たすこと、従来の活動の妨げになることがないようにという点に重点をおいた。そのため、契約後は、委託事業についてはNPOに任せてしまったことは否めない。契約時や企画時に想定していなかったことに対して、そのときそのときの対応が必要であったにも関わらず、十分な回答をしていなかったのではということが反省点である。
- ・事業における詰めに時間を要し、委託業務期間も短くなってしまったが、次世代育成支援対策地域協議会子ども部会への反映の流れづくりには十分な体制整備に着手出来たことから、協働の効果や十分であったと考えている。
- ・今回の業務は短時間で出来るものではなく時間の掛かるものであったが、受託者は短期間の中で前向きに対応してもらったと思う。

- ・今回受託したNPOからは、毎年たくさんの提案をしてもらっているが、現在の限られた予算の中では少しずつ事業を進めていくしかないのが現状である。また、町が中心となって実施している活動にも積極的に参加し、予算がかからない活動を推進している。
- ・受講者から集めたアンケートにおいて高い評価を得ていることから、各受託者が提案した企画（講座）は、現代社会状況を踏まえるとともに、県民の学習ニーズを的確に捉えたものであったと言え、事業の目的に即した高い評価を得られた。

## (2) NPOと行政との協働に関する課題等

### 【NPO】

- ・協働により、お互いに良いところが活かされ、啓発され、成果が得られるような関係なら良いと思う。NPOが行政に対して、きちんと意見が言え、それを行政が理解してくれることが望ましい。
- ・行政の提示した項目に沿ってNPOが企画提案するのではなく、NPOが提案する事業に行政が希望する内容を提案し、協議した上でプログラム決定する形が協働のあり方ではないかと考える。
- ・行政は、予算がついてから相談してくることが多いが、実現の可能性は薄くても予算要求の前に相談して欲しいと思うことが多い。その意味で、NPO活動促進室が行っていたNPOからの共同提案事業をぜひ復活させて欲しい。また、県有遊休施設等の有効利用によるNPOの拠点づくり事業が終了すると聞いたが、この事業もNPOにとっては期待が大きかっただけに残念である。
- ・NPOを安い下請けと考えない。NPOに発注する理由・根拠は地域貢献であると考えて欲しい。
- ・行政職員の意識を変えるとともに、NPO側の行政理解も必要である。
- ・協働に関し、責任と分担を明確にした上で地域の課題を具体的に協議し対応できる自主マネジメントが大切だと思う。地域が考え、地域に行動する核ができて、行政との協働が評価される形をつくるのが大切だと思う。特にNPOは公益活動の有り方を追及し、行政や事業者をつなぐ等、地域の指導的役割を果たすことが求められると思っている。
- ・環境保全の分野では、傷病鳥獣の保護センターの運営や、各種公園、観察施設等の運営等でNPOとの協働事業を行う余地があるが、受け入れ先となるNPOの育成が進んでいない印象がある。NPOがNPOを扶助する制度などを検討してはどうか。

- ・担当者が変わっても良い関係が継続する体制を作って欲しい。
- ・NPOと行政の持つそれぞれの役割を明確にすることで、対等の関係で事業を進めることができ、官民の利点が活かされる可能性が大きいと思われる。
- ・今回初めて行政との協働を経験したが、とてもいい経験になった。行政の施策が生活者に浸透するには時間がかかるばかりでなく、時として間にずれが生じている場合もある。今後、NPO等と行政の協働は、このあたりの問題解決には欠かせないと考ええる。当法人の専門分野である、保健・医療の分野においても、協働が進むことを期待している。
- ・可能性としてNPOと行政との協働による、授産施設のようなものの事業化の実現性はないか。それぐらいの協働の可能性が見えてくることを期待したい。
- ・国や地方自治体の財政が厳しくなっている中で、NPO団体の担うべき役割は、今後ますます大きくなっていく。NPO団体は、高い目的意識を持って社会貢献に取り組んでおり、その道に関してはプロフェッショナルが揃っているため、低予算で非常に中身の濃い事業を実施することができる。
- ・高い収益を上げる能力を持つ一部の団体は別として、大抵のNPO団体は、予算面や運営面、また、事業計画や助成金申請の際の情報収集力や書類作成能力、広報宣伝力等に欠けるため、活動する実力が備わっていても、運営事務的な面が煩わしくて、会員が実力を十二分に発揮することができないという問題を抱えている。

#### 【県】

- ・NPO側からの提案について、事業執行にあたって、いかに反映させていくかが大きな課題である。
- ・県の事業におけるNPOとの協働においては、県が事業を進めていく上での社会・地域ニーズを見極める力をもつことが必要である。NPOの活動や実績について十分認識すること、社会・地域ニーズへの敏感な感覚をもつことにより、県の施策の中で同じ目的に向かって協働することも可能となるものと考ええる。
- ・保健福祉の分野での協働においては特にNPOの力量にかかるところは大きく、NPOを育てるためというような事業の協働についてはなじまないものと考ええる。
- ・業務委託の中でも、委託側と受託側の連絡調整を綿密にとって事業を進めていくべきである。



### (3) NPO推進事業評価に関する意見

#### 【NPO】

- ・各NPOごとの事業内容が違うので、もう少し具体的な設問があれば良いと思う。
- ・評価シートは双方の振り返りや課題を見つけるためには重要なツールであるが、重要なことは、その評価シートを基に話し合いの場を持つことである。そこから協働する際の課題が見つかり、次回の向上に繋がる。
- ・項目によって書きにくいものがあったので、もう少し検討する余地があると感じている。この結果をもとに、更なる協働の実現について話し合う機会を持ちたい。
- ・事業後の振り返りは大切だと思う。NPOと行政がそれぞれに評価を行なうのではなく、一緒に評価シートを作成するのも良いのではないか。
- ・事業評価は次のステップのために当然必要であり、お互いが反省しあう機会として大切なことと思う。また、評価だけで終わらず、またより良い協働のため、少しずつ高めあう信頼関係の構築が求められると思う。
- ・県とNPOで、評価の結果を検討する機会があると良いのではないか。
- ・事業評価委員会を開催し、委員より意見や考えを直に聞くことにより、事業実施にあたり工夫することのヒントとなり、より充実した事業となった。但し、委員の評価を今後どのように繋ぎ、活用していくことができるのかが課題である。
- ・評価シートは、委託者・受託者と同じと思われる設問なので、紛らわしく答えにくかった。
- ・結果について、互いに評価を行うことは大事と思う。事業の種類・内容によっては、適切に反映されないこともあるように感じた。
- ・もっと自由でいいのではないか。評価シートを書いていて不自然で不自由な気持ちがある。人と人と向き合って話し合えば、もっと自然に評価が出てくるもののように思う。NPOと県（行政）、住民（県民）に報告する場があったならばと思う。
- ・事業についてきちんと自己評価し、反省できる機会として、非常に有効だと思う。特に、この自由意見などは、NPO団体から生の声を伝えられる貴重な機会であり、高く評価している。しかし、今回のように、特定の事業実施後を除いては、なかなか意見を伝えられる機会がつかれないので、定期的にアンケートを実施するなどして、NPO団体の意見を幅広く聞く機会を積極的に作って欲しい。

**【県】**

- ・ N P O 推進事業を活用することにより , 行政の視点だけではない新たな視点が加わり , 事業が適切に執行される。
- ・ 達成度を数値化することは大切であるが , 評価が困難のものが多い。また達成度も事業内容や記入者によって大きく変わると思われる。
- ・ 評価シートの中で , 毎年の成果を具体的に評価できるようにしてはどうか。

## 5. 考 察

### (1) 評価結果

- ・全評価項目の平均評点は、4点満点（0～4点の5段階）で、県：3.6，NPO：3.5であり、昨年度と比較し県は0.1ポイントのマイナス，NPOは0.2ポイントのプラスとなった。
- ・評価項目ごとの評価結果については、平均評点が最も低い項目を除けば、全体的にはあまりバラツキが無く、全体の平均値との乖離は少なかった。
- ・県とNPOとのそれぞれの自己評価を評価項目別に比較すると、評価項目5「行程・進行管理」及び9「協働による事業効果」の評点の乖離が0.4と最も大きかった。また、評価項目1「事業目的と計画」の評点の乖離が0.1と最も低かった。これらの結果から、適切な事業目的とその実現に向けた具体的な実施計画が設定されていたことを受委託者双方とも評価しており、事業目的と計画を両者で十分に共有化できたことが表れている。しかしながら、事業実施の進行管理や事業効果の点で意識にズレがあり、両者による事業の進捗状況管理や情報共有が不十分であった結果が表れている。事業効果においては、企画・準備段階から両者が関わることで、適切な事業目標の達成度を設定でき、より高い事業効果に繋がると思慮される。
- ・その他、評価項目5「行程・進行管理」及び7「振り返りの機会の設定」が、最も低い評価項目であったことは、お互いがそのような機会の少なかったことを認めていることである。事業終了後の評価も重要であるが、事業実施中においても受委託者双方の間で必要に応じた話し合いの機会を設け、十分に情報共有を図ることが、次年度以降の事業の進め方に活かせるものと思慮される。

### (2) 自由意見

今回の協働事業を振り返って

- ・NPOからの意見では、これまで、行政のNPOに対する理解不足を指摘する意見が多かったが、今回は逆に良く理解されているとの意見が見られ、評価の成果が出ている。さらに今回は、県に広報支援を求めるなど役割分担による協働の質の向上を目指そうとする姿勢が見られた。
- ・県からの意見では、受託者としてのNPOの役割・事業成果等を高く評価する声が多かった。また、定期的な打ち合わせや十分な話し合いが必要であったと反省の意見があり、このような機会の設定が重要であると思慮される。

#### NPOと行政との協働に関する課題等

- ・県は、NPOを理解すること、打ち合わせを十分に行うことをあげているが、NPOでも同じ意見がある。さらに、NPO全体に対する支援のあり方にも踏み込んでおり、支援の充実を図っていく必要があると考えている。

#### NPO推進事業評価に関する意見

- ・事業の振り返りの機会を与えるこの評価が、非常に有効であるという意見が多かった。しかし、受委託者が別々に評価シートのみで自己評価するだけでなく、両者が集まり報告会等を開催するなど、評価シートを基に話し合いの場を持つことが大事であるという意見もあり、協働の質を高めていくためには、より踏み込んだ振り返りの機会を設けるべきである。また、評価を次の事業につなげて欲しいという意見も多く、NPO活動促進室では、今後、推進事業評価の広報に努めていく。

NPO推進事業（平成17年度実施分）評価対象事業一覧

	事業名	委託者（県）	受託者（NPO）
1	グリーン購入普及促進事業	環境生活部環境政策課	みやぎグリーン購入ネットワーク
2	ポジティブ・アクション推進事業	環境生活部男女共同参画推進課	男女共生社会をすすめる会
3	NPOマネジメントサポート事業	環境生活部NPO活動促進室	特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる
4	子ども専用相談推進事業	保健福祉部子ども家庭課	特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ
5	介護保険サービス第三者評価体制整備事業	保健福祉部介護保険室	特定非営利活動法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ
6	広瀬川環境調査業務	土木部河川課 (仙台土木事務所)	特定非営利活動法人水環境ネット東北
7	広瀬川ゴミマップ作成業務	土木部河川課 (仙台土木事務所)	特定非営利活動法人広瀬川の清流を守る会
8	七北川水辺環境維持委託業務	土木部河川課 (仙台東土木事務所)	特定非営利活動法人河川整備研究会
9	蕪栗沼遊水池周辺河川環境調査業務	土木部河川課 (登米土木事務所)	特定非営利活動法人蕪栗ぬまっこくらぶ
10	青少年長期自然体験活動推進事業	教育庁生涯学習課	特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク
11	みやぎ県民大学推進事業（自主企画講座）	教育庁生涯学習課	特定非営利活動法人みやぎ生涯学習指導・支援センター ----- 伊達なクニづくり女性委員会（東部支部） ----- 特定非営利活動法人ふあるま・ねっと・みやぎ ----- 特定非営利活動法人地域文化研究所小牛田セミナー ----- みやぎ環境教育ネットワーク ----- 美楽アートクラブ ----- 特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会